



発電×農業



署名した協定書を手に、(右から)ダイサンの峠元幹也社長、杉岡村長、サンライズの高木慶治社長。

峠元社長は「年間500tの生産を目指し年数をかけて取り組みたい」と新たな目標を掲げました。

また、流通の分野で参入する株式会社サンライズの高木社長は「寒暖差でトマトに甘味が出る。生産試験や技術指導にも協力したい。地域や行政と一体となりプロジェクトを成功させたい」と意欲を語りました。

飯館バイオパートナーズに 熱利用に向けた協力を依頼

栽培産地立地協定の締結を受けて、村は同日、飯館バイオパートナーズ株式会社(飯館みらい発電所)に対し、この事業における熱利用について、文書で協力を要請しました。

村が令和元年に計画した、「未来志向型農業体系」が、多方面の協力を得て、いよいよ動き出します。

熱を利用する農業施設「脱炭素社会に適応した『産地流通協定型』トマト栽培施設」を導入します。「飯館みらい発電所」の本格稼働を前に、6月、この事業を推進するための栽培産地立地協定も締結されました。これを始めに、事業者が国への事業申請を行い、計画を具体化していきます。

廃熱利用の可能性は、今後多方面の協力を得ながら研究を進めていく方針です。杉岡村長は、栽培産地立地協定の締結式の中で、「村民の皆さんに、未来を思い描いていただける事業にしたい。これまで支援をいただいていた皆さんへの恩返しにもつなげたい」と話し、関係者と思いを共有しました。

未来志向型農業推進に係る 栽培産地立地協定を締結

6月24日、村は、株式会社ダイサン、株式会社サンライズと『未来志向型農業推進に係る栽培産地立地協定』を締結しました。杉岡村長は「未来志向型農業が熱利用の社会実装の試金石となるよう、得意分野を生かし合って相互に発展できれば」と期待を述べました。

株式会社ダイサンは、4年前から村内でトマトの実証栽培を行っていて、同社女子硬式野球部の野球教室を開催するなど村を応援してきました。



文書にて協力を要請しました。「飯館みらい発電所」の田中所長(右)と杉岡村長。



木質バイオマス発電 × 飯館村

「飯館みらい発電所」は、村の公募事業「飯館から始まる森林再生と未来志向型農業体系(木質バイオマス施設)緊急整備事業」で採択された飯館バイオパートナーズ株式会社が事業主体となり、バイオマス発電事業を実施します。

この事業は全体において、「里山の再生」「村経済の活性化・村民所得の向上」「ふくしま全体の復興への貢献」「脱炭素社会(ゼロカーボン)の推進」「廃熱を利用した未来志向型農業の振興」という5つの大きな目的を掲げています。後期計画の大きな目標である「人口増加策」にも直結する事業です。

木質燃料の一部に使用される村内の間伐材は、飯館村森林組合が供給します。昨年度から本格的に間伐を進め、発電所に近い貯木場に集積してきました。この発電事業は、村の林業、里山の再生に大きく貢献していきます。

また、「未来志向型農業体系」は、「担い手の確保」「までいブランドの拡大」「産業の発展」に資する中核事業として計画されました。村は、この計画に基づき、「飯館みらい発電所」の廃

発電×林業



総代の皆さんと共に多くの関係者も出席して、交流センター「ふれ愛館」のホールで開催されました。

飯館村森林組合総代会 本年度の意気込みを語る

5月31日、飯館村森林組合の総代会が、交流センター「ふれ愛館」で行われました。豊かな森林を抱える飯館村の森林組合の総代には、210人をを超える皆さんが名を連ねています。

協議に先立ちあいさつした佐藤長平組合長は「今年度も“ふくしま森林再生事業”の実施に向けて努める。同時に飯館みらい発電所への原木供給を着実に進め、協力いただく山地主の皆様にしっかり還元したい。総売り上げが前年の3億円から、5億円に拡大することが見込まれ、達成されれば黒字額も前年の1,100万円

から、2,800万円に拡大する見通し。村の森林を担う立場から、さらに村の経済をも支える立場になれるよう、実現を目指したい」と熱意を込めて語りました。

来賓として出席した杉岡村長は、「飯館みらい発電所との連携は、第6次総合振興計画が掲げる『生きがいと生業の力強い再生と発展』『ふるさと資源のフル活用』、同後期計画の『人口増加策』にもつながります。感謝を申し上げると同時にますますの協力をお願いします」と述べました。

